

特集

大規模災害医療救護訓練



目次

特集

P2 大規模災害医療救護訓練

P3 一次救命処置（BLS）講習会

P3 シェイクアウト訓練

P4 透析施設災害情報伝達訓練

P5 就職のための見学会開催報告

P6 パブロ・セルニック教授をお迎えして

大規模災害医療救護訓練

統括事務長 西沢 修一



平成29年9月3日（日）に「大規模災害医療救護訓練」を実施致しました。これは飯伊地区包括医療協議会が中心となり医療救護訓練を行ったもので、当院は支援病院群・訓練拠点病院としての訓練に参加致しました。

支援病院群の訓練として、一斉配信メールを使用した職員の緊急招集訓練からはじまり、危機管理として院内の危険箇所の確認、ライフラインの確認、長野県広域災害・救急医療情報システムを利用した情報伝達訓練、救助器具等を使用した救助・避難訓練、火災を想定した通報訓練及び消火訓練、多くの負傷者が来院されたと想定してのトリアージと応急手当訓練などを行いました。その後、AEDを使用しての救急蘇生訓練を行いました。最後に、緊急地震速報が発令されたとして、シェイクアウト訓練を行いました。大きな地震の際はパニックになりがちですが、冷静な行動が大切です。まず自身を守るための3つの安全行動を行うのが基本です。昨年に引き続きシェイクアウトの図を紹介합니다。(安全行動1-2-3の図)

安全行動の1-2-3



- ①ドロップ:姿勢を低く!
- ②カバー:体・頭を守って!
- ③ホールド・オン:揺れが収まるまでじっとして!

出典: The Great Japan ShakeOut ホームページ
(<http://www.shakeout.jp/>)

訓練拠点病院としては、今回山本地区に救護所が設置され、同救護所からトリアージ黄色の負傷者2名の受入れ要請があり、受入れ及び医療処置、収容までを行う訓練を行いました。



災害はいつ起こるか予想はできません。日頃の訓練がいざという時に役立ちます。当グループは、より災害に強い組織を目指し「防災対策委員会」が中心となり多くの防災対策上の課題に対し、具体的な対策を推進していきます。

一次救命処置（BLS）講習会

副総師長 小林 一夫



今回、朝8時にマグニチュード6の地震が発生したという想定で大規模災害医療救護訓練が行われました。実際の災害時に自分がどう動けばよいのか、自分の役割は何か、入院患者・入所者の安全をどう確保したら良いか、訓練を通して再確認をする良い機会となりました。

この訓練の一環で一次救命処置（BLS）の講習会を全職員対象に行いました。この講習会は、目の前の患者さんが急変したときに適切な処置が出来るよう毎年行っています。また、事務職であっても病院スタッフは医療従事者であり、適切な処置ができなければなりません。このため、毎年、主に事務職員に一次救命処置の実演をしてもらっています。今年も、「救命の連鎖」「一次救命処置」についての講義後、本年度入職の事務職員に、一次救命処置を実演してもらいました。看護スタッフのアドバイスを受けながらですが、患者の反応を確認、大声で助けを求め、集まってくれた方々に適切な指示をし、気道確保、呼吸確認、胸骨圧迫、AED施行と、見事に処置を行うことが出来ました。

一次救命処置は一般市民でも出来る処置ですが、救命の成否と予後を決定する大切な処置です。今後、当院職員全員が、いざという時に自ら率先して処置が出来るように、勉強会、講習会行っていきます。そして患者さん、ご家族の方々に安心してもらえるよう、より一層の努力をしていく所存です。



一時救命処置を実演する本年度入職の事務職員

シェイクアウト訓練

IMH 防災対策委員会事務局 原 浩昭



今回も大規模災害医療救護訓練に合わせて、シェイクアウト訓練を行いました。今年で、4回目の訓練内容になりますが、患者さんの安全を守るためには、まず職員が自分の身を守ってこそできるのではという思いから、安全確保の行動を身に付ける目的で行うようになりました。

訓練では、実際に緊急地震速報に合わせて、「姿勢を低くして」「頭を守り」「ダンゴ虫のポーズをとる（揺れが収まるまでじっとする）」の3つの行動を行います。

今後も繰り返し訓練を行うことで、職員全員が冷静な対処が出来ればと考えます。



地震発生時の自分の身を守る姿勢を再確認し、訓練する様子

透析施設災害時情報伝達訓練

透析事務主任 伊藤 祥一



透析施設における「災害時情報伝達訓練」が平成 29 年 9 月 1 日（金）に実施されました。この訓練は、日本透析医会災害情報伝達用ホームページを通じて行うものです。

◆訓練の想定

今年度は、「北信にてマグニチュード 8.0、震度 7 の地震が発生した」との想定で訓練が行われました。

被災地区は長野市、千曲市、須坂市が被害にあったという想定で実施しました。

◆訓練内容

飯田・伊那地区の透析施設からの被災状況等の情報をホームページや FAX で収集し、集約したものを県の透析基幹病院である相澤病院へ報告します。その伝達した内容を各地区の透析施設へ受け入れ等の情報を伝える訓練を実施しました。

◆当地区で災害が発生した場合

当院は飯田・伊那地区 1 2 施設の透析基幹病院となっております。従って、各施設から当院へホームページを介して被災状況等の連絡を受け、被災状況を集約します。しかし、電話等の通信手段が使えない状況下では、災害派遣医療チーム (DMAT) に依頼し、各透析施設の情報収集を行

うことになります。その状況を把握したうえで県の基幹病院との連携をとりながら対応していきます。

◆今後の災害に備えて

今年も大きな地震をはじめ全国各地で大規模な自然災害は発生しています。災害はいつ起こるかもしれません。日頃から災害に対しての準備や心構えが大切であるかと思います。

また、透析を受けている皆様は「災害緊急透析情報カード」をお持ちかと思います。万一災害が発生した際には、指定された避難場所で当該カードを提示していただければ、何かしらの方法で病院との連絡がとることができ、我々も対応が可能となります。

災害緊急透析情報カード(見本)

災害緊急透析情報カード		長野県透析医会
氏名	輝山 光成 血液型 A 型 Rh(+)	
連絡先	高山市高山光町10-0 Tel① 2630-0111△11□	
透析施設	医療法人輝山会記念病院 Tel 0265-26-8111 Fax 0265-26-9690 Kzn-ad@kizankai.or.jp	

初めての大規模災害医療救護訓練の感想

入院医療事務 近藤 結香



今回、入職して初めて大規模災害医療救護訓練に参加しました。今まで行ってきた防災訓練は学生としてだったので守られる側だったのですが、病院に就職し、今度は人を守る側として訓練にあたりました。自分のやるべき役割を把握し、緊張感のある中でしっかり訓練が行えました。特に、一次救命処置の講習会では、参加職員の代表で実演をさせてもらい、周りの人と速やかに連携して対応することの重要性を、身をもって感じることができました。今回の訓練内容が、災害時に活かせるよう今後も備えていきたいです。



2017 年 就職のための見学会開催報告

今年も「就職のための見学会」の第1回目を5月6日(土)、第2回目を8月19日(土)に開催しました。

法人グループ概要説明、応募要項・採用試験説明、各職種・部署相談、施設見学、専門職体験などをしていただきました。両日とも病院への就職に関心のある皆様が積極的に参加してくださり、大変有意義な会となりました。今後も見学会等のイベントは、HP、Facebook 等でお知らせしていきます。多くの方のご参加をお待ちしております。



法人グループ概要説明



応募要項・採用試験説明



各職種・部署相談



施設見学



専門職体験



当法人 Facebook のご案内

今年より「広域医療法人 輝山会」の Facebook ページを開設しております。

イベントや採用情報等の当法人の最新情報を発信しています。ぜひ多くの方に最新情報をご覧いただき、「いいね!」、「フォロー」、「シェア」等していただけると幸いです。



検索キーワード



QR コード

パブロ・セルニック教授 特別講演

総合リハビリテーションセンター 作業療法士 水田 佑美



ジョンズホプキンス大学
パブロ・セルニック教授

7月30日から8月1日にかけて、ジョンズホプキンス大学のパブロ・セルニック教授がご家族と共に来訪され、31日に当院で特別講演を行っていただきました。

当院での講演当日は、午前中にご家族と飯田の町を観光されました。「伊那谷道中」では、陶芸体験や展示物を見学し、昔遊びでは竹馬に夢中になるパブロ教授の一面を見ることができました。娘のナターシャさんは、大学の授業で日本文化についてプレゼンをされており、歌舞伎等の展示物に興味津々の様子でした。昼食は囲炉裏を囲み、釣り堀で釣った魚や五平餅を焼き、日本の食文化を楽しんでいただきました。

夕方からの講演では、TMS（経頭蓋磁気刺激療法）を用いた最新のリハビリテーションについて

講演をしていただき、今後の脳卒中におけるリハビリテーションの可能性を感じることができました。また、今回の講演では藤田保健衛生大学の才藤栄一教授から、パブロ教授の



藤田保健衛生大学
才藤栄一教授

講演内容について私達にも理解しやすいように解説してくださり、さらに内容が深まりました。講演後の親睦会では浴衣を着用し、日本舞踊や日本料理等、午前に引き続き日本文化を堪能していただきました。

今後も、外国人講師の方々が来院される機会が増えるかと思います。今回のことを活かし、日本人ならではのおもてなしができるように努力して参りたいと思います。



講演会の様子



歓迎会の様子